

仕事も育児も堪能

子供のころから本、特に推理小説が大好きであった。それは「仮説と検証」に興味があったからではないかと、後年実験を行っている時に納得したことがある。学生ころには食べ歩きに動しんでおり、おいしいものを作る仕事に就きたいというのが私の第一の入社動機であった。

配属された研究室では、男女差なく仕事を与えられ、自分の意見を求められ、若手も自分の意志で実験の内容をある程度決めることができた。自分が開発した中味が日本各地の

凛としていきる

理系女性の挑戦



部下の「枷」はずす後押しを

製造場で製品になっていく様に立ち会う機会も多く、製品が直接店頭でお客さまの手に渡るという実感が得られる仕事には、本当にやりがいを感じた。

入社時は研究所全体で出産後も働き続けて

いる女性社員は皆無であった。私の出産の前年に出産後復職する先輩たちが現れたものの、所属部署では私が初めてであり、自分で労働基本法・就業規則

復職後は「週1回残業する日」を家族と調整して、日頃できない時間のかかる実験を夜遅く迄こなし、仕事も育児も堪能していた。

夫が2003年から09年まで豪州に単身赴任、07年からは私も単身赴任となった。子供は大学生になっており、電話・スカイプ・ラインも使って毎晩短くても連絡をとることで、家族の一体感を保つように努めている。

私は結婚以来初めて平日の家事から解放されているが、これは単身赴任の思いがけない大きなメリットである。

今は当社の産休・育児時短等の制度が十分整っているだけでなく、会社も世の中も女性活躍を応援してくれる。私は管理職として、部下の育児と仕事の両立を支える立場で、本人自身が制限を設けている枷をはずす後押しをしている。

研究職の人は、ずっと研究を続けたいと思う人が多いが、管理職には管理職としての面白さも醍醐味もある。

後輩女性たちが管理職になって、さらに後輩を育てていけるよう、自分が役に立てることを願っている。

それが私を育てて下さった方々への恩返しである。

企画協力・日本女性技術者フォーラム(JWEF)  
(火曜日に掲載)

サントリースピリッツ 商品開発研究部 部長  
芦川 匡子

入社時は研究所全体で出産後も働き続けていた。産休は出産前後で約2カ月半のため(育児制度はなかった)「少し長めの夏休み」程度の感覚ではなかったかと思う。

年齢性別関係なく、自由に議論

私は結婚以来初めて平日の家事から解放されているが、これは単身赴任の思いがけない大きな

研究職の人は、ずっと研究を続けたいと思う人が多いが、管理職には管理職としての面白さも醍醐味もある。

後輩女性たちが管理職になって、さらに後輩を育てていけるよう、自分が役に立てることを願っている。

それが私を育てて下さった方々への恩返しである。

〈プロフィール〉81年関西学院大理学部化学科卒業、同年サントリースピリッツ入社。飲料・健康素材の新製品開発・品質保証、07年より酒類の新製品開発・品質保証に従事。12年より現職。JWEF法人会員

